

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100893		
法人名	株式会社 豊和会		
事業所名	グループホーム なのはな陽東(1階)		
所在地	栃木県宇都宮市陽東1丁目12番14号		
自己評価作成日	令和5年10月22日	評価結果市町村受理日	令和6年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和5年11月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、お一人おひとりの生活リズムやこれまでの人生歴を大切にしながら、ゆとりと楽しみをもって生活していただけるよう心がけています。  
新型コロナウイルス流行によって今まで制限がされていた部分もありますが、地域やご家族様の係わりも重要だと考えており、訪問販売やボランティアの受け入れやご家族様と居室での面会など徐々に再開しております。また、グループホームならではのフットワークの軽さを活かし、個別単位での外出支援を行うなど、個々のニーズに沿った支援を行えるよう努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市東部の閑静な住宅街に位置し、周囲には大学や小中学校、こども園等の教育施設が建ち並び、大型ショッピングモールにもほど近い利便性に恵まれた環境にある。職員は、利用者の立場に立った丁寧な言葉かけと、個別のニーズに応える支援を大切にしており、利用者一人ひとりの生活ペースに柔軟に対応している。季節ごとのイベントを職員企画で実施するほか、企画書にとらわれない外出も多く取り入れ、散歩や買い物、LRT乗車など、地域との交流を図りながら日常的に戸外へ出る機会をもつことに力を入れている。管理者は、風通しのよい職場環境づくりを重視し、職員間で気兼ねなく意見交換できる機会を設けたり、職員の気づきに対してスピード感をもって運営に反映させることで、利用者、家族の安心にも繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合い理念を作成し、振り返り確認できるよう掲示してある。職員の入社時期により共有が不十分なところもある為、今一度職員間で意識しあいながら職務に取り組みたい。	利用者に対する接し方や地域との関係性、つながりを謳った法人理念をもとに、事業所のケア方針を定めている。入社時や研修時等、折に触れて振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーや飲食店、レンタルビデオ店への外出、ヤクルトやパンの訪問販売、催しのボランティア受け入れなど、一度はコロナにより機会が減ってしまったものの、徐々に地域との交流する機会が増えてきている。	コロナ禍以前は、地域の祭や小学校の行事に参加し、交流を図っていた。ボランティアの受け入れを再開するなど、徐々に地域との交流機会を増やせるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の再開を検討しているものの、コロナの影響や地域の方との調整の兼ね合いで行えておらず、意見交換の場が少なくなっているのが現状であり、今後は外部主催のイベントに参加したり、情報発信を強化していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策として運営推進会議は行っていないものの、日々の活動内容について、写真や資料を送付し、事業所の取り組みや内容への理解を求めている。	事業所での活動内容を写真を添えて書面にて報告し、事業所の取り組みについて理解を得ている。現在は書面開催としており、次年度を目途に対面開催の再開を予定している。	会議参加者の意見をサービス向上に活かしていくために、事業所からの報告のみでなく、双方向的な会議となるような工夫を取り入れることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に事業所の実情や利用者様の状況などの相談報告を行っている。また、業務において分からないものなどは相談させていただいている。	市担当者が運営推進会議のメンバーとなっており、必要に応じて連絡を取り合い、事業所の実情を報告したり、手続きの相談をしたりと、顔なじみの関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を開催し、振り返りを行っている。また、身体拘束を行ってしまう風土を醸成しないよう、課題に対して職員間での意見交換しながら全員で対策に臨む体制をつくるなど、風通しのよい組織づくりに努めている。	拘束防止委員会を中心に、定期的に研修を開催しながら、意識づけを行っている。日頃から、利用者へ寄り添った対応を心掛け、不適切な言葉かけをしないよう、職員間で注意し合いながらケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を開いている。日々の業務の中で、虐待になっていないかなど、意識付けを行っている。また、無理な業務量になっていないか、職員同士で意見交換を行いながら、ゆとりをもって接することができる環境を作れるようその都度見直している。		

グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、権利擁護の制度について、事業所内で学ぶ機会や情報共有など行っていない。今後は内部研修で情報共有を行ったり、外部研修に積極的に参加するなど学ぶ機会を作れるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は利用者様やご家族様と十分に話し合い、同意を得たうえで契約を結んでいる。解約や改定についても書面で通知させていただき、不安な点や疑問点などいつでも相談できるような環境づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時や電話連絡の際、本人の生活の様子や現在の支援内容を情報共有し、ご家族様からの意向をもとに内容をすり合わせを行い支援に反映させている。	家族の来所時や電話連絡の際に、利用者の暮らしぶりを報告し、要望の聞きとりを丁寧に行っている。出された意見、要望は職員間で共有した上で、支援に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議や申し送りで意見交換の場を設けたり伝言板を設置するなど、運営に反映させるよう心がけている。また、それ以外にも、普段から管理者と個別に話せる環境を作っている。	毎月のホーム会議や、毎日の申し送り等の他、かしくまった場を設定せずいつでも気兼ねなく意見を表せる環境作りを大切にしている。伝言のノートを活用しながら、職員の気づきを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間内で業務が遂行できるよう、研修や会議などスケジュールを工夫している。また、有給消化を積極的に促したり、生活環境にあわせて、シフトは希望休を反映し、勤務帯(夜勤回数など)においても、職員の意向を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いての研修や、毎月事業所内で少人数ずつ参加の内部研修を実施し、スキルアップの機会を設けている。また、各職員がテーマ設定をしたり、月ごとに講師役を担ってもらうなど主体性をもって学べるよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	労協の委託訓練などを通じて同業者と交流できる機会を作れるよう努めている。コロナ禍で他事業所見学や交流が減ってしまったため、今後は交流の機会を設けていきたい。		

グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や本人面談の際、本人の言葉や表情を通して気持ちを汲み取れるよう心がけている。また、意思疎通が難しい方でも、これまでの生活歴、人生歴をご家族様から聴き取りを行い、本人の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたってご家族様の意向や要望の把握しサービス内容に反映させている。また入居後もご本人の様子や支援内容などをご家族様と情報共有を行い、安心して関わっていただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと情報共有をしながら、現在の生活で支障となっていることを本人、ご家族様と話し合い、本人の状態にあったサービス利用選択について提案し、ともに検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて、家事や役割を担っていただいております。それらを通し他者との関係を築ける場を作っている。また、物事の決定においても、本人の選択をできる限り尊重し、主体性をもって生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況の報告など密に家族と情報共有している。施設のルール一辺倒にならず、突発的な外出、面会希望の際も柔軟に対応している。また、面会時には居室で気兼ねなく家族の時間を過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	習い事の継続や外出、かかりつけ医の受診、日用品の購入など、できる限り本人、家族の希望に沿った暮らしが継続できるよう努めている。また文通や電話連絡のとりつきなど、これまでの関係性が途切れないよう支援している。	ダンス教室に通っている方が、事業所利用後も続けられるよう支援するなど、利用者がこれまで大切にしてきた趣味や場所との関係を継続できるように働きかけている。職員が家族と協働で支援できるよう、家族との関係性も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に応じて食席を調整したり、職員が間に入るなど工夫している。また、ゲームや装飾作りなどに参加していただき、共通の物事を通してお互いが良好な関係を築き、孤立しないよう支援している。		

グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族との連絡や相談を受けられる体制を作っており、これまでの関係性を大切にしながら対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、人生歴を家族から聞き取りを行ったり、本人の言葉や態度などから、できるだけ本人の意向に沿った支援ができるよう努めている。	日々の関わりの中で利用者との会話を大切にしながら、思いの把握に繋げている。言葉での意思疎通が困難な方には、家族からの情報を参考にすると他、表情から推し量り、職員間で共有しながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネージャーを通して情報収集を行い、これまでの暮らし方についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月カンファレンスを実施し、本人の状態や支援内容を職員間で意見交換している。また、日々の生活の様子を記録や申し送りなどで情報共有を行いながら、本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを通し、本人の現状把握を行っている。また、課題点や対策など記録を通し情報収集、共有し、定期的にサービス計画書に反映できるよう努めている。	日々の記録を職員間で共有しながら、利用者の状態を把握している。小さな変化を見逃さずに都度記録しながら、毎月のホーム会議で見直しを行い、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子を24時間シート、特記事項、申し送りノートを活用し情報共有しており、その都度、支援内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて外出、買い物、散髪習い事など個別支援を行っている。また、企画書にとらわれず、個々のニーズに合わせて少人数単位での外出など柔軟に対応している。		

グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れやヤクルト訪問販売、パンの移動販売、散髪や買い物で近隣の店を利用するなど、地域との関係づくりに努めている。コロナ禍で中止になっていた地域のイベントなど徐々に機会を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態や家族事情に合わせて、定期受診を家族に依頼したり、訪問診療を活用している。職員から家族、主治医に情報提供や服薬調整の相談を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者の状態や家族の希望に合わせた医療機関の受診を支援している。家族の付き添いでかかりつけ医を受診する際は、書面や口頭で利用者の状態を伝え、受診後は結果の報告を受けるなど、情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームで看護師の配置はないものの、本人の状態に応じて、家族に訪問看護利用などの情報提供を行っている。また、訪問診療利用者については、看護師に情報提供や相談を行い、適切な治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要に応じて医療機関に情報提供を行っている。退院時には事前に病院の担当窓口や看護師から聞き取りを行い、現状の把握に努め受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については早い段階から家族に説明を行い、理解を得ている。状態に応じて特養への転居や訪問診療、看護利用等の情報提供を行っている。事業所としてもエンゼルケアの資料を回覧配布するなど共有している。	状態変化に応じて、段階的に話し合いの機会を設け、利用者、家族の意向を確認しながら方針を共有している。医療を伴わない自然な形での看取りを実施した経験がある。職員はエンゼルケアに関する資料を確認しながら、理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時について、定期的に研修を行っており、連絡手順や対応について職員間で共有している。また、事故報告書や記録にて起こりうるリスクを予測し、具体的な対策案へと昇華させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の内部訓練、年1回の消防署立ち合いの総合避難訓練を実施している。また、入居者の状態に応じての避難誘導方法などを共有し備えている。	消防署の助言を得ながら、避難訓練、消火器の使い方の訓練等を定期的実施している。寝たきり状態の利用者を階段を使って避難するなど、より実践的な訓練を行っている。水、食料等の備蓄やコンロ、ラジオ等の備品も適切に管理している。	

グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切にし、否定や指示口調にならないよう心がけている。また、プライバシーへの配慮として、必要に応じて同性介護も視野に入れ対応している。	排泄時や更衣時などは羞恥心に配慮しながら支援するよう努めている。入室時にはノックするなど、居室で過ごす際のプライバシーにも配慮し、個別性を大切にしながら支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訪問販売時に支払いをしていただく、洋服を選ぶ、物事を「やる」「やらない」など、都度本人の気持ちに合わせて対応している。画一的なケアは避けながら、職員都合にならないよう、一人ひとりの思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちに応じて自由に過ごしていただいている。また散歩や外出、日常の物事への参加など、平等ではなく、機会平等を目指し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ウィッグや化粧品の使用、洋服の選択など、本人の生活習慣が継続できるように努めている。また、職員が必要に応じて髭剃りや髪を整えたり身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器洗い、下膳、お盆拭きなど入居者様に応じて役割を担っていただいている。また、ホットケーキや団子、お好み焼きなどイベント食として提供する際は、食材を切っていただいたり、調理過程も参加できる機会を作っている。	利用者の能力に応じて、テーブル拭き、下膳などを手伝ってもらっている。イベント食では、利用者が調理過程に参加できるメニューを提供したり、時には出前をとったり外食したりと、食事を楽しめる工夫を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅食業者を利用し栄養バランスの管理を行っており、必要に応じて刻むなど食形態を変え対応している。また、事業所でゼリーを作り形状を変え提供したり、一人ひとりの嗜好に合わせてコーヒーやお茶菓子、カップラーメンなどを個別購入支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が歯磨きの声かけをおこない、必要に応じて傍での見守りや介助を行っている。義歯を使用している方は、夜間入れ歯洗浄剤にて洗浄している。		

グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートで情報共有し、排泄パターンの把握に努めている。また、必要に応じて定時での声かけ、誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。排泄用品についても、その都度本人の状態に合わせ見直しを行い、場面によって使い分けしている。	記録をもとに個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導により支援している。失敗時の声掛けはさりげなく行うとともに、失敗しない環境作りの検討も大切にしている。ポータブルトイレやパッド類は、必要性を十分に検討し、利用者の状態に合わせた適切な用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやココアの提供、水分摂取量が少ない方はゼリーで形状を工夫して摂取していただいている。また、散歩や体操など、身体を動かす機会を作り、必要に応じて主治医と相談しながら、内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間は決まっているが、一人ひとりの体調やその日の気持ちに合わせて柔軟に対応している。入浴されない場合は清拭を行い、清潔保持に努めている。	週2～3回、午後の時間帯の入浴を基本としている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、清拭対応したり、タイミングを変えるなど、柔軟に対応している。一人ひとり湯を入れ替え、気持ち良く入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や休息は自由であり、生活習慣や身体状況に応じて午睡を取り入れる、寝具類の調整などの環境整備を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により薬の性質を理解し、緊急ファイル保管にていつでも確認できるようにしている。内服薬に変更があった場合は記録に記載し、職員間で情報共有を図っている。また、入居者様によっては居宅療養管理指導サービスを利用し、薬局と連携し管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食器洗いなどの家事的な役割のほかに、月1～2回のイベントや、パン、お茶菓子作りなど企画書にとられない突発的なイベントを柔軟に行っている。また、一人ひとりの嗜好にあわせて、カップラーメンやお茶菓子を個別で提供したり、個別での外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩、習い事、買い物外出や月1～2回の遠出外出を行っている。また、企画書にとられない少人数単位での外出も行っており、できる限り個々の希望に合わせた外出ができるよう心がけている。最近ではLRT乗車など、地域の協力を得ながらの外出も取り入れている。	月に1～2回、季節を感じられる場所への外出を企画している。家族の協力による外出も積極的に支援しているほか、企画書にとられない突発的な外出も多数実施し、日常的に戸外へでる機会をもつことを大切にしている。	



グループホームなのはな陽東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい金として家族から預かっており、基本は事務所にて管理している。ヤクルト、パンなどの訪問販売時や外出時などは、一人ひとりの能力に合わせ、ご自分でお支払いいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などからの電話の取次ぎや、手紙が届いた際には、本人に直接お渡ししている。入居者様によっては手紙の返信を書いていたいただき、返信できるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアごとにテーブルの配置や高さを変えたり、エアコンで温度やカーテンで光の調整をし、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。また、季節に合わせた工作物を掲示することで、四季を感じていただけるようにしている。	玄関に利用者が作成した書を掲示したり、リビングには季節に合わせた工作物を飾るなど、四季を感じられる工夫を施している。テーブルの配置や高さなどは、利用者の使いやすさに配慮している。光の調整や温湿度の管理にも気を配りながら、心地よく過ごせる空間となるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファを設置したり、テーブルとテレビの位置を調整、入居者様によって一時的な食席移動で、ホールにいたとしても、おしゃべりされる方、くつろぐ方、テレビを視聴される方、一人ひとりが自由に過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、使い慣れたものや思い出の品を飾ったり、本人にとって居心地の良い空間作りを心がけており、今までの生活にできるだけ近い環境作りができるよう支援している。	エアコン、ベッド、洗面台、クローゼット等が備え付けられ、利用者にはテレビ、仏壇等、自由に持ち込んでもらい、その人らしく安心して過ごせる居室づくりを支援している。職員の支援のもと、定期的に清掃し、清潔な空間を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状態にあわせて階段とエレベーターを使い分けたり、トイレにはわかりやすい文字とマークでの表示をしている。また、個々の福祉用具の利用状況に応じて、導線に囲まれるところを作ったり、物をおかないようにしたり工夫している。		